

IACS 議長協会として

国際室

1. はじめに

本年6月に開催された IACS (International Associations of Classification Societies : 国際船級協会連合) の第61回 Council (理事会) 会合に於いて、本会上田会長が7月1日から Council 議長に就任することが決議され、今後1年間、本会は IACS の議長協会を務めることとなった。1968年の IACS 創設以来のメンバーである本会は、過去3度の IACS 議長協会を務めており、今回が4度目となる。

上田会長は、7月1日の IACS 議長就任に際して、IMO 事務局長及びICS等の業界団体を表敬訪問すると共にプレス会合等(写真1~3参照)を通じて、IACS 議長として次の3点(詳細後述)に尽力することを表明している。

- ① IMO を含む海事社会への積極的な技術的貢献
- ② 海事業界全体の意見やニーズの反映
- ③ より透明性の高い IACS への確実な移行

2. IACS 議長としての重点項目

2.1 IMO を含む海事社会への積極的な技術的貢献

IMO において1969年からテクニカルアドバイザーとして不可欠な役割を果たしている IACS は、IMO を含む海事社会全体から様々な要望、特に技術的事項に於ける中立公正な貢献が求められている。

近年における温室効果ガス(GHG)や大気汚染ガス(NOx/SOx)の削減、バラスト水管理、シップリサイクリング等の環境関連問題は、IMO 及び海事業界として喫緊の

重要課題であり、IACS としても、これらに関する新たな条約を含め国際条約の制定、改廃及び施行が円滑にまた効果的に実施されるよう海事業界とともに貢献している。

本会は、IACS 議長協会の間、特に以下に対する技術的な貢献を重点項目として取り組む。

(1) GHG 排出の削減

IACS は、環境問題に特化した専門家グループを設け、現在は主に GHG 削減に関わる技術課題について検討している。例えば、IMO に於いて審議中の新造船に関するエネルギー効率設計指標(EEDI)に関し、最低船速の影響等、安全上の問題を検討している。

環境関連の国際条約の制定及び施行が円滑にまた効果的に実施されるよう、IACS としては、技術的側面から今後さらに積極的な貢献を行い、海事社会の要請に応えたい。

(2) GBS 適合の調和 CSR の開発

本年5月開催のIMO MSC87(第87回海上安全委員会)において船体構造に関する船級協会規則に求められる機能要件や適合検証ガイドラインを定めたIMO GBS(Goal Based Standard)及び関連のSOLAS条約(第II-1章3-10規則)改正が採択された。この条約改正は2012年1月1日に発効し、2016年7月1日以降に建造契約の行われる150m以上の油タンカーとばら積貨物船に適用される。また、油タンカー及びばら積貨物船の船級協会規則は、2013年末までにIMO GBSに適合させてIMOに提出し、IMOによる適合検証を受けることが求められる。

一方、IACS は、業界要望に応えるべく現行の油タンカーとばら積貨物船のための2つのCSRを一本化する調和CSR開発プロジェクトを開始している。今般のIMO GBS



写真1 IMOのMitropolous事務局長と上田会長



写真2 ICSのPolemis会長と上田会長



写真3 プレスランチで所信表明する上田会長

の採択を受けて、非常に時間的に厳しい条件ながら、GBSに適合するIACS調和CSRをIMOの適合検証期限に間に合わせるべく開発することを決定した。

この調和CSR開発には、GBSとのギャップの解消、包括的な寸法影響評価の実施及び業界等による十分な外部レビューが含まれる。そのため、今後数年間にIACSとして膨大な量の人的、財政的資源を集中投入して、調和CSR開発作業を推進することとなる。

2.2 海事業界全体の意見やニーズの反映

海事業界はグローバルな業界であり、IACSは関連業界の意見を幅広く、且つバランスよく聞き入れることが必要である。例えば、利害関係が異なる船主団体と造船団体の考え方が異なる場合や、地域的な海事産業構造の違いによる意見の相違等においても、一部の意見に偏重することなく、海事業界全体の意見やニーズをバランスよく反映させることに重要を置く。

具体的には、議長就任に際して直ちに実施したように、IMO及び旗国、マスコミを含む海事業界関係者と継続的に且つ幅広くコミュニケーションを強化し、これをIACSの意思決定に反映させていく。

2.3 より透明性の高いIACSへの円滑な移行

IACSは、2008年1月に始まった欧州委員会（EC）によるIACSへの競争法違反の嫌疑を払拭するため、2009年5月にECに対し、IACSをよりオープンで透明性のある合理的な組織とすることを確約する次のようなコミットメントをECに提出した。

- ① IACSメンバー資格基準と資格審査手順改訂
- ② 独立性のあるIACS品質システムの導入
- ③ 非IACS船級協会のIACS技術部会への参加
- ④ IACS技術規則及びその背景の公開
- ⑤ 独立異議申立て審査会（IAB）の設置

これにより、IACSはEC競争法違反に問われることなくECの査察は終了したが、IACSとしては、今後、コミットメントを確実に且つ円滑に実施し、より透明性を高めたIACSに移行することが求められている。

議長協会としては、コミットメントの内、特に、次に説明する新しいIACSメンバー資格基準の運用及び独立性を確保した新IACS品質システムへの移行を確実に実施すると共に、これらによっても引き続きIACSの高い品質レベルを維持してゆくことを重要課題として取り組みたい。

(1) IACSメンバー資格基準の運用

新しいメンバー資格基準は量的基準から質的基準に変更され、より客観的で透明性のある10の基準が定められた。

例えば、

- ・ 規則を自ら制定改廃する能力を有すること
- ・ 自船級船の十分な検査体制を有すること
- ・ 図面審査や研究開発の能力を有すること
- ・ IACS品質システムを実施維持すること

等の質的基準である。これら質的基準の実際の適用に当たってはそれぞれ具体的な審査手順を詳細に定め、一定の品質レベルが維持されるようにしている。

今後予想される新メンバーの加入申請に対しても、IACSの高い品質レベルが維持されるよう、上記の新メンバー資格基準に忠実に則って、公正に加入申請を審査していくことが喫緊の課題となる。

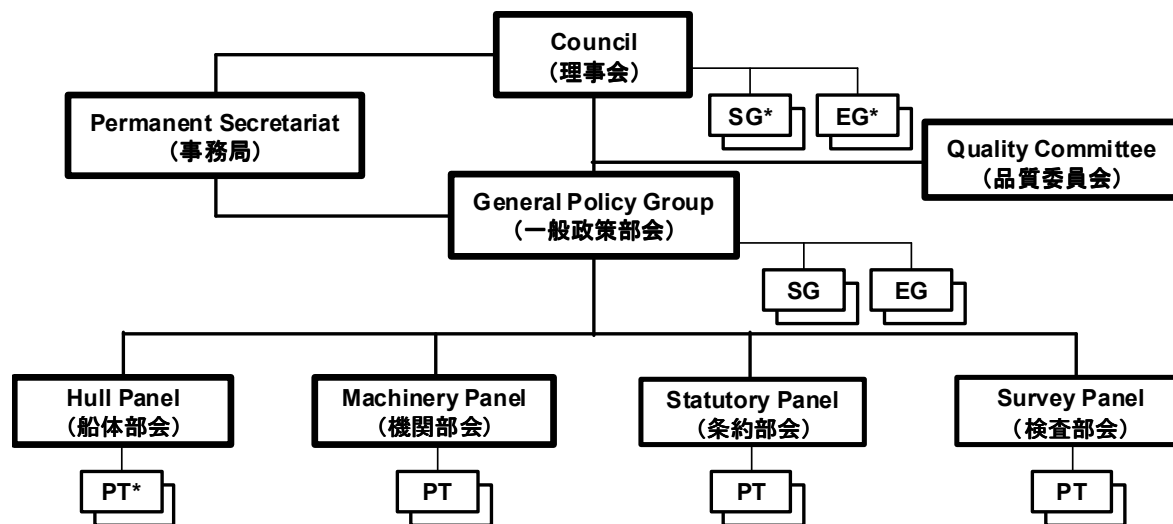
(2) 独立性を確保した新IACSへの移行

コミットメントの一環として、IACSの品質管理認証スキーム（QSCS）を非IACSメンバー協会が利用可能とするため、QSCSを外务公开した。これまでIACSが行っていたQSCSによる品質監査についても、IACSからの独立性を確保するため、2011年1月から民間認証団体（Accredited Certification Body：ACB）によるIACS QSCSの品質監査システムへ移行すべく進めている。

議長協会としては、新IACS品質システムを2011年1月1日から完全実施し、IACSとしてメンバー船級協会の高い品質レベルを維持することが喫緊の課題と考えている。

3. IACS議長協会の体制

昨年4月にIACS議長協会としての体制整備の一環として国際室にIACS議長チームが新設された。本年3月からIACS議長チームは、Council議長である上田会長の直轄の



* SG: Small Group, EG: Expert Group, PT: Project Team

図 1 IACS 組織図 (概略)

組織となり、5名の専任職員ほか IACS 内の Council 及び GPG 等の審議とりまとめ、会合運営等の業務に従事する体制を構築している。

IACS には GPG の下に 4 つの分野 (Hull, Machinery, Statutory 及び Survey) の技術部会 (Panel) が設置され (図 1 参照)、統一規則 (UR: Unified Requirement) 及び統一解釈 (UI: Unified Interpretation) 等の制定改廃にかかわる審議を行っている。また、IACS の品質システムを管理するための Quality Committee (QC)、特定の案件を効率的に検討して Council や GPG に答申するために少数メンバーで構成される Small Group (SG) や、全船級から専門家が参加する Expert Group (EG) 等が設置されている。なお、特定の技術案件を一定期間内に効率的に遂行するために、少人数で構成される Project Team (PT) を各 Panel の下に設置して対応している。

本会は、4 の Panel、10 の EG、4 の SG 及び 20 以上の主要な Project Team に参画し、IACS の活動に積極的に貢献している。また、Hull Panel の初代議長 (2005 年～2007 年)、GBS 対応 EG の議長 (2008 年～) を務める等、IACS の技術的な審議を主導してきている。延べ 40 名を超える IACS 関連業務に従事している役職員の一例を表 1 に示すが、様々な立場、所属の役職員が含まれており、本会は組織を挙げて対応している。

IACS 議長協会として、更に IACS 全体の活動を掌握、主導していくことを目的に、IACS 関連業務に従事している役職員間の連携及び情報共有を強化している。また、来年 1 月から 3 年間、Survey Panel の議長も務める予定である。

更に、IMO 及び IACS との連携強化も重要であることから、IMO 海洋環境部への職員派遣を継続するとともに、本

年 1 月より IACS 事務局の主に CSR を所掌する技術職ポストに職員を派遣している。

表 1 IACS 内の主な NK メンバー

会合	メンバー名
Council (理事会)	議長：上田会長
	メンバー：米家常務理事
GPG (一般政策部会)	議長：有馬国際室長
	メンバー：岡本国際室次長
Quality Committee (品質委員会)	秋山監査室長
Hull Panel (船体部会)	形部開発部主管
Machinery Panel (機関部会)	藤浪開発部次長
Statutory Panel (条約部会)	高尾開発部主管
Survey Panel (検査部会)	議長*：小河原検査技術部長
	メンバー：三浦検査技術部主管

*：2011 年 1 月 1 日より議長就任予定

今後、NK が議長協会として開催する IACS の Council 及び GPG の会合スケジュールは以下の通りである。

- 2010 年 10 月 第 69 回 GPG 会合
- 2010 年 12 月 第 62 回 Council 会合
- 2011 年 3 月 第 70 回 GPG 会合
- 2011 年 6 月 第 63 回 Council 会合

また、IMO に関しては、本会は従来から日本代表团又は IACS 代表团の一員として、各種委員会、小委員会に参加してきている。これに加え、IACS 議長協会として、MSC 及び MEPC に参加する IACS 代表团を主導することとなる。

4. 最後に

本会は議長協会を務めるにあたって、高い技術力及び高い品質レベルを基に、海上の安全性向上及び海洋環境の保護に関して海事業界に貢献するという、IACS の基本理念を踏襲していく。

これに加えて、Council 議長として表明済みの 3 点の重点課題に尽力する所存である。また、これを実現するには、海事業界の方々とのコミュニケーションを更に強化し、ご協力を得ながら進めることが重要であり、それが結果的に IACS の強化に繋がると考えている。

従って、本会は、この議長協会となる機会を捉え、これまで以上に、海上の安全及び海洋環境の保護並びに海事産業の発展に貢献、寄与するとともに、海事業界のニーズに応えるべく、IACS 及び IMO 等の国際活動に積極的に取り組む所存である。